

一般シンポジウム S11

日本発顧みられない熱帯病創薬におけるパートナーシップの最前線

Partnership for NTDs drug discovery originated in Japan

山田 陽城^{1,2}, 北 潔³

¹東京薬大薬, ²特定非営利活動法人 DNDi Japan,

³長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科

世界の人口のおよそ6分の1が感染に晒されている顧みられない熱帯病 (NTDs) は、患者が途上国の貧困地域に多いことから、市場性がなく新しい医薬品開発のメカニズムが必要である。近年、グローバルな医薬品開発パートナーシップ (PDPs) により創薬プラットフォームが構築され、それに参加する製薬企業や大学・研究機関と資金面で研究開発をサポートする体制が一体となり着実に成果を挙げつつある。本シンポジウムでは官民パートナーシップによる日本発 NTDs 治療薬開発の最前線を紹介し、今後の創薬におけるアカデミアの役割や課題を討議することを目的とする。

具体的には NTDs と治療薬の研究・開発の現状、NTD s 治療薬開発のための PDP s である DNDi と企業の壁を超えたコンソーシアム「創薬ブースター」による革新的なスクリーニングと最近の成果、創薬から感染地での臨床試験、薬剤アクセスまでをカバーする PDPs の役割などを紹介していただく。さらにシンポジウムを通じ NTDs 創薬の先行日本企業からその参画が自社にもたらしたインパクトの紹介やアカデミアへの期待などについても提案したい。